

笑ってごらん

第 588 号 H. 29. 6. 20 発行

～今日のことば～

うまくいっているときは、周りに人がたくさん集まる。だが、一番大切なのは、どん底のとき、誰がそばにいてくれたかや。

(野村克也)

◇◆東京都中央卸売市場築地市場の豊洲移転が先延ばしになって7カ月余が経った。報道を見ると、築地市場は相変わらず活気にあふれ、国内外の観光客でごった返している。そんな中、『AERA』6月19日号にこんな興味深い記事があった。 ◆実はこの東京都中央卸売市場築地市場、昨年11月の閉場・移転に向け、市場に生息するネズミの掃討作戦が計画されていた。築地市場は人もネズミも出入り自由の開放型施設のため、生息域が場内と場外で明確に分かれているかどうか不明だ。同区では例年、築地場外を中心にマンホールにわなを仕掛けるなどの方法で年間300匹程度を捕獲しているという。昨年11月に予定されていた移転に際しては、場外にネズミが大量に流出することを見越して駆除対策を立て、飲食店や家庭用に配布するため捕獲用の粘着シート8万3千枚や、植え込みなどに仕掛けるプラスチック製捕獲ボックスなどを用意していた。しかし、同8月末に移転方針が凍結になり、場内外での対策も宙に浮いた格好だ。 ◆ネズミによる被害で最も恐ろしいのは感染症だ。かまれたり触ったりすることで直接感染するだけでなく、ネズミの糞尿が飲み水や食品を汚染して口から病原体が取り込まれる危険性もある。近年は被害報告はほとんどないが、急性熱性疾患や、腎症候性出血熱などを発症する恐れがあるという。日本国内には18種類のネズミが生息しているとされ、このうち都市部で問題を引き起こすのは、ビルの内部や高所、天井裏などに生息する体長15～20センチほどのクマネズミと、下水管や植え込みなどに生息する体長22～26センチほどのドブネズミ。築地市場内外に生息しているのは専らドブネズミである。排水溝も穴だらけで、ノコギリで削ったマグロのカスなどエサが豊富なうえ、段ボールや発泡スチロールの箱が山積みで、営巣できる隙間や材料がそこらじゅうにある。ドブネズミの住環境としては皮肉なことに最適。業者を入れて駆除はしているものの、わなは主に通路にしかかけられないなど制限が多く、効果的ではないという。東京五輪が開かれる2020年はネズミ年。それまでに、行政には抜本的なネズミ対策も講じてほしい。 ◆日本の台所とも言える築地市場にネズミが走り回っている状況はいただけない。衛生面の管理については十分に行っていただきたいものだ。直近の報道では決定ではないものの、どうやら豊洲への移転計画が本格化しそうである。不衛生な状況まで一緒に引っ越すことにならないように対策して欲しいものだ。



感謝道

◇◆16～19日、全九州高等学校テニス競技大会が鹿児島県で行われた。知覧テニスの森公園がメイン会場。現在、本校の藺牟田先生が鹿児島県高等学校体育連盟テニス専門委員長職にある関係で、連動して私も専門部長職に位置づけられている。今回の大会運営の責任者として藺牟田先生は大忙しである。幸いなことに本校の男女テニス部は県大会を制し、地元開催である九州大会への出場権を得た。大会結果については今回も優秀な成績であった。詳しくは本校のブログ等で確認して欲しい。私は役員としてこの3日間、自校の選手の応援をしながら、大会運営スタッフの動きを観察していた。たくさんの選手・指導者、保護者・一般応援者への配慮の行き届いた素晴らしい運営であったと思う。藺牟田先生をはじめとする鹿児島県テニス協会及び高体連の皆さんや

県内各校のテニス部員一同の協力に感謝するとともに、素晴らしい運営に拍手喝采を送る次第。お疲れ様！